

# 随想

## 登山雑感



中学校 国語科教諭 岡田雅子

笑うなかれ、私は80歳まで生きるつもりである。だから40歳を迎えた時、自分の人生は半分過ぎてしまったと感じた。後の半生何をしたいのか、思いを巡

らせてみると、「一番したいことは「山に登ること」だった。そして登るなら家族で登りたいと提案すると、夫も「いいね」と了承。身近に山登りのベテランもいて、その方のアドバイスで最初の家族登山は北アルプスの燕岳とした。

初めての北アルプスは親の方が大変だった。ようやく合戦小屋を過ぎ、雲の切れ目から燕山荘が見えた時のうれしさは忘れられない。

翌年は白馬岳、そして白山、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、槍ヶ岳、穂高、雲の平と、年に二回の夏山登山が続いた。もともと子どもが熱を出して途中で引き返した年もあるし、都合がつかず行かなかつた年もある。三人の子どもたちも部活が忙しい等の理由で次々と抜けたので、五人揃って登ったのは燕岳と白馬岳の二座である。そして最近の家族登山は夫婦二人となった。

山行の回数を重ねるうちに頂上を

めざすだけの登山ではなくなっていく。お花畑と称する色とりどりの花が咲く美しい光景に出会って、まず高山植物に魅せられた。息を切らして登っているときにふと出会った可憐なチシマギキョウに何度励まされたことか、烈風吹きすさぶ尾根道で岩にへばりつくようにけなげに生きるタカネツメクサに何度心打たれたことか、短い夏の、その朝、木道の脇の地塘ちちゆうにしつとりと潤っていた苔の美しさにどれほど魅了されたことか。

1997年に日本自然保護協会の主催する自然観察の講習を受けて、自然を五感で感じるこの大切さを学んだ。木々を、花を、山を、空を見ること、鳥の声を聞くこと、木肌に触ってみること、食べられる実を味わうことetc。ひたすら頂上をめざしていた登山よりずっと奥行きが深まった。

さらに山の会に入会し参加するよ

うになって、登山の楽しさは質的に変わっていった。同好の会はそれが何であれ、共通の関心事で集まっているのだから、話題も重なり居心地のよいものである。私が所属している会は毎月レベルごとに4、5回のハイキングや日帰り山行を行い、夏は2、3泊の合宿山行を行っている。この会には植物に詳しい人、鳥に詳しい人、絵のうまい人、料理の上手な人等がいて、多種多様な方々から教えてもらうことも多い。家族登山は気楽でいいが、山好きな仲間との登山もさまざまな発見がある。一つの感動が一緒に参加した人数分大きく感じられるのが、不思議である。

燕岳から始まった我が家の家族登山は年とともに、その裾野を大きく広げて来た。この先にはどんな事が待っているだろう。身体を鍛えながらさまざまな楽しみを与えてくれる「自然」に感謝の日々である。